



ファッションショーで力作を披露した



スカートなどを完成させた生徒と会員たち

同会は2003年に設立。資源の再利用を旨とし、タンスの奥に眠っていた着物、押し入れの隅で息を潜めていた古い布を活用しながら、普段着やドレスを製作。新たな姿で蘇った作品をファッションショーで披露し、リフォームの楽しさや喜びを伝える活動に取り組んでいる。

この日は生徒6人と藤原会長ら会員4人が参加。使わなくなった着物の生地を活用して、生徒たちは「出来栄は良いと思います。色柄やデザインを意識し、布をどのように生かすか考えました」などと語っていた。

【美深】美深高等養護学校（大泉真哉校長）の被服デザイン科2年生と呼布の会（藤原茂子会長）の連携事業が、10月28日午後1時15分から同校で行われ、着物の生地ですカートなどを作った。同校による地域交流活動の一環として毎年続いているもので、年1回、交流授業を行っている。

生徒たちは「出来栄は良いと思います。色柄やデザインを意識し、布をどのように生かすか考えました」などと語っていた。最後に、鑑賞会としてファッションショーを繰り広げ、完成したスカートを目にさせて披露し、笑顔を見せていた。

美深高等養護学校 着物生地ですカート作る 被服デザイン科と呼布の会交流

生徒たちの作品は、11月4日まで町文化会館COM100で開かれている「美深町民文化祭」の町民作品総合展示会でも披露している。

（中村）